

令和6年度実施 分野別認証評価報告書  
(農林環境分野)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

令和7年2月

静岡県立農林環境専門職大学等外部評価委員会

## 1 認証評価結果

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（農林環境分野）の教育研究等の状況は、専門職短期大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、静岡県立農林環境専門職大学等外部評価委員会が定める専門職短期大学分野別認証評価基準（農林環境分野）に適合している。

### 【判断の理由】

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（農林環境分野）の教育研究等の状況は、専門職短期大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、静岡県立農林環境専門職大学等外部評価委員会が定める専門職短期大学分野別認証評価基準（農林環境分野）に適合している。

## 2 基準ごとの評価

### 領域Ⅰ 短期大学の目的及び学修成果

#### 基準Ⅰ-1

専門職短期大学が担う使命に則して、専門職短期大学の目的が、適切に設定されていること。この目的には、当該専門職短期大学の育成しようとする人材像及び個性・特色が明確に示されていること。

#### 評価結果

基準Ⅰ-1を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(Ⅰ-1-1) 専門職短期大学生産科学科の入学受入方針(以下、AP)、卒業認定・学位授与方針(以下、DP)、教育課程編成・実施方針(以下、CP)は、明確に提示・公表されている。

・貴専門職短期大学は、明治期の農事試験場を契機に農林業の担い手や指導者を養成する農林業実践教育を120余年に渡り実施してきた。現代社会においては農林業従事者の育成のみならず、海外を含む多様な地域や組織で活躍できる人材や農林業の経営マインドを習得した人材を育成している。明治期以降、時代の変遷に伴い学校名称は変化した。貴短期大学の前身である静岡県立農林大学校の「耕土耕心」の理念は受け継がれ、その伝統は継承されている。

以上の内容から、「基準Ⅰ-1を満たしている」と判断する。

#### 基準Ⅰ-2

専門職短期大学に求められている人材育成がなされていること。

#### 評価結果

基準Ⅰ-2を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(Ⅰ-2-1) 単位修得率、修業年限内の卒業率も高く、このことがキャリア形成に関わる資格取得等にも積極的であり、学修成果も上がっていると判断した。

加えて、一人で複数の資格を取得する学生も見られ、このことは増加傾向にある。

(Ⅰ-2-2) アンケート結果より、学修成果が上がっていると判断した。

(Ⅰ-2-3) 農林業関連への進路実績から、学修成果が上がっていると判断した。

(Ⅰ-2-4) 就職先等の意見聴取結果から、良い点についての意見を尊重する。

以上の内容から、「基準Ⅰ-2を満たしている。」と判断する。

## 領域 I の基準について

### 【優れた点】あるいは【特色ある点】

- ・「学修成果の可視化のための学内評価一覧」として、実績データを整理したことで、学修の成果が分かりやすくなった。「学修成果の可視化のための学内評価一覧」で、引き続き実績を記録していくことにより、中長期的な学修成果の分析が可能となり今後の継続が望まれる。
- ・「学修成果の可視化のための学内評価一覧」は、専門職短期大学の教員に共有化され、可視化されているが、内部質保証の具体例としても機能を果たしているため高く評価できる。
- ・季節に合わせた農林業生産や効果的な臨地実務実習のため、授業の一部にクォーター制が採用され効果を上げている。

### 【改善が望ましい点】

- ・農林業関連への進路実績は申し分ないが、農林業自体への就業をより一層促進してほしい。また、就職先等の評価で全国平均より低いコミュニケーション能力、マナーなどについても改善の努力を求めたい。

### 【改善を要する点】

- ・専門職短期大学の学修成果として最も重要な卒業生の就職後の動向を調査していく必要がある。

## 領域Ⅱ 教育課程及び教育方法

### 基準Ⅱ-1

農林業（栽培、林業、畜産等）生産現場のリーダーとして農山村の地域社会を支える人材の育成をめざして、卒業認定・学位授与方針が、具体的かつ明確であること。

#### 評価結果

基準Ⅱ-1 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

（Ⅱ-1-1）卒業認定・学位授与方針は、明確に策定されていると判断した。

- ・地域社会を支える人材として、農林業生産現場のリーダーの役割だけでなく、農山村地域の環境維持、存続のため自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承に関する知識を習得するカリキュラムが設定されている。
- ・農山村の地域資源や生産する農産物に対応した加工・流通・販売等の知識を活用して生産物の付加価値向上を図る手法を実践的に修得できるカリキュラムが設定されている。
- ・学生は各自が選択した栽培、林業、畜産の各分野における実務実習を履修しているが、その実習を通して研究課題を設定する。その研究テーマは「プロジェクト研究」を通して探究され、プレゼンテーション形式の研究発表となる。

以上の内容から、「基準Ⅱ-1 を満たしている。」と判断する。

### 基準Ⅱ-2

農林業（栽培、林業、畜産等）生産現場のリーダーとして農山村の地域社会を支える人材に求められる能力（思考力、分析・判断力、応用力、コミュニケーション力等）の養成をめざして、教育課程編成・実施方針が、卒業認定・学位授与方針と一貫性があり、具体的かつ明確であること。

#### 評価結果

基準Ⅱ-2 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

（Ⅱ-2-1）CP と DP は、整合的であると判断した。

- ・DP に示した資質・能力を習得するため、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場のリーダーとなり、農山村を支える地域リーダーとなるため、必要な知識を修得する科目群は、講義、演習、実習で編成される。

（Ⅱ-2-2）CP は、学修成果の評価方針等を具体的に明示されていると確認できる。

- ・DP の到達をめざして栽培・林業・畜産の分野は、1年次後半から栽培コース・林業コース・畜産コースに分かれて専門的な知識や技能を習得する。ただ、各分野に共通する知識や技術については1年次後半も共通に履修する。

以上の内容から、「基準Ⅱ-2 を満たしている。」と判断する。

### 基準Ⅱ-3

農林業（栽培、林業、畜産等）生産現場のリーダーとして農山村の地域社会を支える人材に求められる理論的、実践的な能力を養成するとともに、人間性と幅広い視野を身につけ、創造的な役割を果たし必要な能力を修得させるために、教育課程の編成及び授業科目の内容・水準が、体系的かつ適切であること。また、教育課程の編成、授業科目、卒業要件等が、専門職短期大学設置基準に適合するものであること。

#### 評価結果

基準Ⅱ-3を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

- (Ⅱ-3-1) 基礎科目と専門科目上に文化や地域社会などの総合的な科目が体系的に編成されていることを確認できる。
    - ・カリキュラムマップによる段階的学修の明示と AP、DP、CP の内容が並列的に明示され、『大学案内』にて公表しているため、学生だけでなくステークホルダーにも理解でき評価できる。
  - (Ⅱ-3-2) カリキュラムツリーにより、授業科目の配当は妥当と判断した。
    - ・県内農林業事情の理解を促すため、各業界の実務家を講師として招聘する「静岡学」の開設は、貴短期大学の特色でありユニークなカリキュラムである。
  - (Ⅱ-3-3) 到達目標が明示され、授業水準が適切であると判断した。
    - ・シラバスの公開により科目別の到達目標や授業内容が公表され、学修目標のルーブリックも開発されている
  - (Ⅱ-3-4) 授業の体系的な説明資料は、学生に周知されていると判断した。
    - ・学生に対する履修説明が複数回に渡って実施され、学生にとって望ましい対応である。
- 以上の内容から、「基準Ⅱ-3を満たしている。」と判断する。

### 基準Ⅱ-4

臨地実務実習の管理運営体制が整備され、農林業の人材育成目標に則して適切に運用されていること。

#### 評価結果

基準Ⅱ-4を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

- (Ⅱ-4-1) 臨地実務実習について、管理運営体制が整備され、実施されていると判断した。
- 以上の内容から、「基準Ⅱ-4を満たしている。」と判断する。

## 基準Ⅱ-5

農林業の人材育成目標を反映した適切な授業形態（講義、演習、実習等）・方法（現地調査、事例研究等）、学修指導法等が、採用されていること。また、客員教員・外部講師等農林環境分野関連機関と連携した教育上の工夫が行われていること。

### 評価結果

基準Ⅱ-5を満たしている。

### 評価結果の根拠・理由

（Ⅱ-5-1）適切な授業形態と学修指導方法が採用されていることを確認できる。

- ・専門領域の特徴から授業形態（講義、演習、実習）と方法（現地実習、事例研究）には多様性があるが、学生アンケートによれば満足度は高い。
- ・多様なメディアを使った授業が多く実施されているが、学生の満足度が高い要因の1つであり今後も期待できる。

（Ⅱ-5-2）客員教員・外部講師と連携した教育が、行われていると判断した。

- ・「静岡学」や実務家が講師をされることは、学生だけでなく業界や地域社会においてもメリットがあり画期的な取り組みと言える。

（Ⅱ-5-3）文科省の指導に従い単位の実質化は、妥当に行われていると判断した。

（Ⅱ-5-4）開学後の期間が短いため判断が難しい。

以上の内容から、「基準Ⅱ-5を満たしている。」と判断する。

## 基準Ⅱ-6

公正な成績評価が客観的かつ厳格に実施され、単位が認定されていること。

### 評価結果

基準Ⅱ-6を満たしている。

### 評価結果の根拠・理由

（Ⅱ-6-1）成績評価基準が、整合性をもって策定されていると判断した。

（Ⅱ-6-2）成績評価基準が、適正に学生に周知されていることを確認できる。

（Ⅱ-6-3）成績評価や単位認定が、組織的に確認されていると判断した。

（Ⅱ-6-4）異議申立て制度が組織的に設けられていると確認できる。

（Ⅱ-6-5）既修得単位の認定に関する規定が定められていることを確認できる。

以上の内容から、「基準Ⅱ-6を満たしている。」と判断する。

## 基準Ⅱ-7

卒業要件が卒業認定・学位授与方針に則して策定され、公正な卒業認定が実施されていること。

### 評価結果

基準Ⅱ-7を満たしている。

### 評価結果の根拠・理由

- (Ⅱ-7-1) 卒業要件は、DP に則して策定されていることを確認できる。
  - (Ⅱ-7-2) 卒業要件は、学生に周知されていることを確認できる。
  - (Ⅱ-7-3) 卒業認定が、卒業要件に則して、実施されていることを確認できる。
- 以上の内容から、「基準Ⅱ-7を満たしている。」と判断する。

## 基準Ⅱ-8

産業界・地域社会と連携した教育課程の編成が進められていること。また、教育課程連携協議会が、定期的で開催され、機能していること。

### 評価結果

基準Ⅱ-8を満たしている。

### 評価結果の根拠・理由

- (Ⅱ-8-1) 開学後の期間が短いため成果は判断しにくいですが、教育課程連携協議会の設置などの計画は進んでいると判断した。
  - ・農林業界、農林業諸団体、高校関係者、地元自治体関係者等で構成される「教育課程連携協議会」が定期的で開催され、業界の情報提供等、教育現場に多大な貢献を果たしている。この取り組みそのものが貴短期大学の特徴であり高く評価できる。
  - (Ⅱ-8-2) 教育課程連携協議会が適切に開催されていると判断した。
  - ・教育課程連携協議会は、県内の農林業に関わる実務家、団体の代表者、県や市の担当部署の代表者から構成され、いずれも業界の最新情報の提供や短大としての将来の方向性（例えば、カリキュラム改革等）を検討する貴重な情報交換がなされる取り組みである。
- 以上の内容から、「基準Ⅱ-8を満たしている。」と判断する。

## 領域Ⅱの基準について

### 【優れた点】あるいは【特色ある点】

- ・実習を中心に大学の目的に対応して、生産現場でのリーダー養成に則した授業が実施されている。「静岡学」「臨地実務実習」「企業実習」「プロジェクト研究」などは高く評価できる。
- ・「学修成果の可視化のための学内評価一覧」データは、教務関連委員会だけでなく、各種の委員会等でエビデンスとして活用が可能であり、今後も活用いただきたい。

### 【改善が望ましい点】

- ・教員負担を軽減することで、全体としての教育の質を向上させるために、方法及び施設・設備その他の教育上の諸条件を考慮して十分な教育効果を上げることができると考えられる科目については、令和6年度実施の6科目以外でも40人を超えて授業を行うことが望まれる。

### 【改善を要する点】

特になし。

## 領域Ⅲ 教育研究実施組織

### 基準Ⅲ-1

教育研究実施組織が、専門職短期大学が担う使命を遂行するために、適切に構成され、教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること。

#### 評価結果

基準Ⅲ-1 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(Ⅲ-1-1) 教育研究上の基本組織が、目的を達成する上で、適切な構成となっていると判断した。

・貴短期大学では、1年次後半から栽培・林業・畜産の3コースに分かれて専門知識や技術を修得するという画期的な教育活動を展開しているため、その成果に期待したい。

(Ⅲ-1-2) 教員が、適切に配置されていると判断した。

・1年次後半以降も分野を横断する科目は、共通科目として学年全体で履修するが、実務家教員が多く配置されていることもあり、教員間の業務負担に格差が生じないように注視したい。

以上の内容から、「基準Ⅲ-1 を満たしている。」と判断する。

### 基準Ⅲ-2

教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること。

#### 評価結果

基準Ⅲ-2 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(Ⅲ-2-1) 教授会等が、必要な活動を行っており、教育研究に関わる責任の所在が明確になっていると判断した。

・県内の農林業事情や地域社会の事情に精通している学外者と貴短期大学の教職員で構成する「教育課程連携委員会」の機能は高く評価できる。

以上の内容から、「基準Ⅲ-2 を満たしている。」と判断する。

### **基準Ⅲ-3**

教員と事務職員等との役割分担が適切であり、これらの者との間の連携体制が確保され、教職員の管理運営に関する能力を向上させる取組が実施されていること。

#### **評価結果**

基準Ⅲ-3を満たしている。

#### **評価結果の根拠・理由**

(Ⅲ-3-1) 教員と事務職員の連携体制が、確保されていると判断した。

・大学マネジメント会議、評議会、各委員会等において教員と事務職員が連携しながら運営に当たっている。

(Ⅲ-3-2) FD と共に SD が実施されていることを確認した。

・FD と SD が1つの「FD/SD 委員会」で実施されているが、それぞれの設置目的は異なるので、委員会の構成員は同一であっても、規程等で明記するか、会議の趣旨を構成員に明示する必要がある。

以上の内容から、「基準Ⅲ-3を満たしている。」と判断する。

### 領域Ⅲの基準について

#### 【優れた点】あるいは【特色ある点】

- ・専任教員数、実務家教員数ともに設置基準を超えて十分に確保している。また、教授会、評議会、大学マネジメント会議（4役会議）、各委員会等において、教員および事務職員の間での情報共有や役割分担が効果的・効率的に行われている。特に教育課程連携協議会は重要と評価できる。

#### 【改善が望まれる点】

- ・教員の退職・新規採用を通じて、今後も実務家教員数を継続的に確保出来るようにしていくことが望まれる。
- ・SD活動とFD活動の実施にあたっては、活動目的の違いを認識すると共に、それを教職員に周知することが求められる。

#### 【改善を要する点】

- ・教員間での授業数や指導学生数の格差があることから、その縮小が必要である。

## 領域IV 学修環境

### 基準IV-1

学修環境の維持・向上のために、入学者受入方針に則して入学者の受入が適切に実施され、在籍者数及び実入学者数が、収容定員及び入学定員に対して適正な数となっていること。

#### 評価結果

基準IV-1 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(IV-1-1) 入学者選抜が、公正かつ適正に実施されていると判断した。

(IV-1-2) 収容定員に対する、在籍者数の割合が、若干少ない。

(IV-1-3) 入学定員に対する、実際の入学者数が若干少ない。

以上の内容から、「基準IV-1 を満たしている。」と判断する。

### 基準IV-2

教育研究実施組織及び教育課程に対応した施設・設備（ICT 環境、バリアフリー化等を含む。）並びに図書、学術雑誌等の教育上必要な資料が整備され、有効に活用されていること。

#### 評価結果

基準IV-2 を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(IV-2-1) 必要な施設・整備が、法令に基づき整備されていると判断した。

(IV-2-2) 安全性が配慮されていると判断した。

(IV-2-3) ICT 環境が整備されていることを確認できる。

(IV-2-4) 自習室・グループ討議室など、自主的学修環境が整備され、利用されていることを確認できる。

・図書館の休館は土・日曜であり、閉館時間が 17:00 である。学生にとって自学・自習時間の場所と時間の確保につき検討を要する。

以上の内容から、「基準IV-2 を満たしている。」と判断する。

### **基準IV-3**

教育研究活動を支える施設・設備を運用するための財政基盤が確立され、それらの管理運営体制が整備されていること。

#### **評価結果**

基準IV-3を満たしている。

#### **評価結果の根拠・理由**

(IV-3-1) 施設・設備を運用するために、必要な予算が配分され経費が執行されていることを確認できる。

(IV-3-2) 管理運営組織が、適切な規模と機能を有していることを確認できる。

以上の内容から、「基準IV-3を満たしている。」と判断する。

### **基準IV-4**

学生に対して、適切な履修指導、学修支援が行われていること。

#### **評価結果**

基準IV-4を満たしている。

#### **評価結果の根拠・理由**

(IV-4-1) 履修指導、学修相談等が、学生の多様性を踏まえて適切に行われていると判断した。

(IV-4-2) 特別な支援を必要とする学生に対して、学修支援を行う体制が、整備されていると判断した。

・R4年度のSD研修会において、とりわけ課題をもつ学生にとって、望ましい対応であった。

以上の内容から、「基準IV-4を満たしている。」と判断する。

### **基準IV-5**

学生に対して、生活、進路、経済、ハラスメント等に関する相談・助言、支援等が適切に実施されていること。

#### **評価結果**

基準IV-5を満たしている。

#### **評価結果の根拠・理由**

(IV-5-1) 学生の生活、進路等に関する相談・助言体制が整備されており、必要な支援が行われていると判断した。

(IV-5-2) ハラスメントに関して、おおむねは、組織的な体制が構築されていることを確認できる。

以上の内容から、「基準IV-5を満たしている。」と判断する。

## 領域Ⅳの基準について

### 【優れた点】あるいは【特色ある点】

- ・1年次全員が寮生活、少人数教育、キャリア・サポートセンターの積極的な支援等により、日頃学生とのコミュニケーションが十分に図られている。学生の履修指導、学修相談・助言等に関しては、新入生セミナーの開講及び担任制を導入している。
- ・入学初年次において、学修と生活への早期の適応力を身に着けさせるとともに、コース・分野選択に関する指導、キャリア支援、就職活動支援等、学生に対する全般的な指導・支援を行うため、木曜日の1時限目に新入生セミナーを実施している。
- ・また、学生担任は入学後1年春夏期までの前期担任と、コース・分野分け後(1年秋期)から卒業までの後期担任とし、時間をかけて丁寧に学生への対応を行っている。
- ・さらに、学生面談の際には、クラス担任がキャリアサポート個人シートに面談の内容を記録し、教員への情報共有をしている。

### 【改善が望ましい点】

- ・留学生や国際交流に対応する学内組織がないので、設置することが望まれる。
- ・ハラスメント事案は、学長と独立した部門で取り扱う仕組みが必要。また、学生のハラスメント事案についても、学生委員会ではなくハラスメント委員会で一括して取り扱うのが望ましい。
- ・図書館の閉館時間について、学生から土日や17時以降への延長の要望がないか確認することが望ましい。
- ・入学定員の実際の入学者数に合わせた是正を検討した方がよい。一方で、社会人や留学生の入学実績についても上げていくことが望ましい。

### 【改善を要する点】

- ・大学における設備においては、研究・教育上最先端のものが求められることから現状使用できるものも含めて、計画的な更新が必要である。

## 領域V 内部質保証

### 基準V-1

内部質保証に係る体制・手順が明確に規定され、適切に実施され、教育研究等の改善・向上が図られていること。

#### 評価結果

基準V-1を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(V-1-1) 教育研究活動等の質および学修成果の水準について、PDCA サイクルが実施されていると判断した。

(V-1-2) 自己点検の評価項目が適切に設定され、客観的な数値を用いて成果が分析されていると判断した。

(V-1-3) 自己点検の結果を踏まえた対応措置が行われていることを確認した。

以上の内容から、「基準V-1を満たしている。」と判断する。

### 基準V-2

教育研究活動等に関する情報が適切に公表され、説明責任が果たされているとともに、社会からのフィードバックが教育研究等の改善・向上に活かされていること。

#### 評価結果

基準V-2を満たしている。

#### 評価結果の根拠・理由

(V-2-1) 法令等が求めている事項が公表されていると判断した。

(V-2-2) 社会からのフィードバックを受け、教育研究の改善を行う体制が整備されていると判断した。

以上の内容から、「基準V-2を満たしている。」と判断する。

### **基準V-3**

専門職短期大学の教育に資する研究のあり方を踏まえて、農林環境関連の学術的研究、農林環境に関する知識・技能の充実や刷新を伴う実務に基づいた研究に継続的に取り組み、教員の質が確保されていること。さらに教育研究活動を支援・補助する者を含めて、それらの維持・向上が図られていること。

#### **評価結果**

基準V-3を満たしている。

#### **評価結果の根拠・理由**

- (V-3-1) 若い実務家教員の昇格条件を明確にすることが必要である。
  - (V-3-2) 教育活動の継続的な評価等は、適切に行われていると判断した。
  - (V-3-3) FDは、組織的に実施されていると判断した。
  - (V-3-4) ノートテイカー等の支援についての検討が、今後、望まれる。
- 以上の内容から、「基準V-3を満たしている。」と判断する。

## 領域Vの基準について

### 【優れた点】あるいは【特色ある点】

- ・自己点検評価報告書（ポートフォリオ）の他、教員の教育研究活動等を報告した紀要・年報（アグリフォーレ・レポート）、学則・規程集等学内の情報を大学ホームページにより広く一般公開している。
- ・「学修成果の可視化のための学内評価一覧」は、教員間で共有されているデータであり、学生の成績だけに限らず、演習・実習・進路に関わる活動に関する有効性を有しており期待したい。
- ・教員・事務職員が参加するFD・SD研修では課題となるテーマについて講師からの講演後にグループ討議を行うよう努めており、内容について共有・深化することができている。
- ・FD・SD研修会において講演会だけでなく、グループワークを開催して当該課題の共有化を図るとともに、障害者差別解消法に係るワーキンググループが発足した。

### 【改善が望ましい点】

- ・各種委員会等を通じて、全教員が自己点検評価に関わっているものの自己点検評価の中身への理解は必ずしも深くない。全学的に自己点検評価について周知することが望まれる。確かに、全学的に取り組むべきものである内部質保証での改善はトップダウン式では早く決裁できるものの、健全な大学の運営としては時間がかかるかもしれないが、各委員会が自ら検討・実施する体制に移行することが必要である。

### 【改善を要する点】

特になし。

### 3 意見の申立て及びその対応

外部評価委員会は、評価結果を確定するにあたり、あらかじめ当該専門職短期大学部に対して評価結果（案）を示し、その内容について、既に提出されている自己評価書及び根拠資料ならびに訪問調査における意見の範囲内で意見がある場合には、申立てを行うよう求めた。

申立て件数 0件